

2019 年度  
学校関係者評価委員会告書

A d a c h i 学園  
専門学校東京デザイナー学院

2020 年 3 月 31 日作成

## はじめに

2018年度の自己点検・自己評価報告書をもとに、学校関係者評価委員会が調査・分析し、以下の通り「2019年度 学校関係者評価 結果報告」をまとめました。

今年度は、年度末も押し迫った時期の開催となり、ご協力頂きました委員の皆様には誠に感謝致しますとともに、本報告書をより良き学校運営の一助としてご活用頂き、学校が益々発展させます事を委員一同祈念致します。

## 学校関係者評価委員

委員長	黒田 邦男（東京デザイナー学院 学校長）
副委員長	秋月 久美子（デザイナー / 卒業生等）
委員	藤原 亮二（有限会社藤原アイアンクラフト）
委員	阿部 賢吉（レモン画翠 / 地域等）
委員	佐々木龍郎（東京建築士会 / 業界団体等）
委員	菅野 修（東京デザイナー学院 学務部）
事務局担当	有賀 史彦（東京デザイナー学院）

1・学校の教育目標

●業界で活躍できる人材の育成・輩出

『ゼロからプロになる』ための『人間力』を引き出す

●東京デザイナー学院が求める人物像（アドミッションポリシー）

感動力を持つ

果敢にチャレンジする

自分らしさを育む

2・本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

●就職

本年度の実績として

- ・ 就職希望率 97.9%
- ・ 就職決定率 94.2%

本年度実績を踏まえた目標

- ・ 就職希望率 95.0%
- ・ 就職決定率 100%

●進級継続

本年度実績として

- ・ 1年次から2年次へ 84.0%
- ・ 1年次から卒業へ 77.7%

本年度実績を踏まえた目標

- ・ 1年次から2年次へ 87%
- ・ 1年次から卒業へ 86%

### 3・評価項目の達成及び取組状況

#### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか	4	3	2
・学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

#### ① 課題

- ・保護者に対し、どの程度学校がアプローチするのか
- ・AO入学や入学説明会への保護者の参加率が年々増加している為、学生・保護者共に、本校の教育理念・目標・特色等理解して入学している者も多いと感じる

#### ② 今後の改善方策

- ・保護者へ、今回の新型肺炎における学業の遅れを明確に伝えると良いのではないか
- ・入学後や進級時のオリエンテーションの際に、本校の教育理念・目標・特色・アドミッションポリシー等、再確認する機会を設けてはどうか

#### ③ 特記事項

なし

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	4	3	2	1

① 課題

- ・学校周辺のタバコの吸い殻問題

② 今後の改善方策

- ・学校指定の喫煙スペースがあれば、徹底的に守らせるべき。無ければ、つくる方向で、周囲に迷惑をかけないように

③特記事項

なし

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	4	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	4	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	3	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	4	3	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

① 課題

- ・教職員研修や非常勤教員の拡充
- ・専任教員の積極的な研修への参加

② 今後の改善方策

- ・中期にわたる人材教育、確保の計画と実施
- ・非常勤教員について、毎週授業を持つことが厳しいようだったら、複数の非常勤教員が隔週で授業を持つといったような運営を考えてはどうか

③特記事項

なし

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・就職率の向上がはかられているか	4	3	2
・資格取得率の向上がはかられているか	4	3	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・退学者の増加問題、退学率が増えると、高校教員の評価が低くなる
- ・卒業後の資格取得状況を把握できるシステムづくりが必要なのではないか

② 今後の改善方策

- ・個々に別々の問題を抱えていると考えられるが、生徒の目標が明確でそれに寄り添っているかの確認
- ・積年の課題だが、校友会の有効活用を。卒業生の情報を収集できるシステムづくりに本腰を入れるべき

③特記事項

なし



(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生の生活環境への支援はおこなわれているか	4	3	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みがおこなわれているか	4	3	2	1

① 課題

- ・学生へのフォローが少し遅れているように思える
- ・求人情報をタブレットなどの端末で検索できるシステムを導入してはどうか

② 今後の改善方策

- ・学科スタッフは学生から相談受けたら、速やかに専門の部署や教職員への誘導を行い、その後のフォローと相談部署や教職員との連携をはかる
- ・在校生の保護者会の開催については、遠方に住んでいる保護者も多く、また本人も18歳を超えていることから、希望する保護者は少ないのではないか。それよりも在校生の各種展示イベントの情報を確実に保護者に届く形にしてはどうか

③ 特記事項

なし

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・校舎の老朽化における各種トラブル

② 今後の改善方策

- ・老朽化でのトラブルは、学校の評判下げるので早急な対応を
- ・個人宅では揃えられない大型プリンターを使うことができたり、家ではできない作業ができることが学校のメリットでもあるので教育環境づくりには注力して欲しい

③ 特記事項

なし

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2
・学生募集活動において、教育効果は正確につたえられているか	4	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

- ・学費が専門学校平均よりやや高額
- ・体験入学の対象が細分化され過ぎていて、かえってわかりづらくなっている

② 今後の改善方策

- ・設備が老朽化しているのに少し高いと思われてしまうので、何か省けるものがあれば
- ・同時進行で複数の体験入学を開催せず、日程を分けて開催してはどうか

③ 特記事項

なし

(8) 財務

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

- ・校舎の老朽化によるトラブルが頻発

② 今後の改善方策

- ・限られた予算ではあるが、何らかの改善を

③ 特記事項

なし

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	4	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 課題

- ・個人情報の管理体制
- ・デジタルリテラシーによるトラブルが頻発しているようなので SNS による発信や、著作権について注意喚起が必要なのでは

② 今後の改善方策

- ・個人情報管理規定の明文化と周知徹底
- ・専門家によるコンプライアンス研修の導入

③ 特記事項

なし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4	3	2
・学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

・地域に親しまれる学校づくりに尽力を。信頼関係ができれば、苦情は減るのでは

③ 特記事項

(1 1) 国際交流 (必要に応じて)

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	4	3	2
・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわれているか	4	3	2	1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
・学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4	3	2	1

① 課題

- ・今後、コロナ騒動で生じるさまざまな問題

② 今後の改善方策

- ・できる限り問題が発生したら対処してほしい
- ・専門のスタッフが常駐していることは心強いので、今後は卒業した留学生とのネットワーク構築を

③ 特記事項

#### 4・学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・2019年度は概ね学生への教育の質が向上しており、次年度もさらなる質の向上に期待
- ・2019年度終盤は、コロナウィルス流行により卒業式の簡素化、感染対策で留学生も里帰りができないとのニュースも聞く。2020年度は未知の領域となってしまう、就職活動や内定も困難になると予想されるので、教育の特色をしっかりとアピールし、質の高い人材を輩出して高い就職率を目指して欲しい
- ・困難であることは十分理解しているが、学生が社会に出た後のアフターフォローは、今後学校評価のポイントになるので今後の改善を期待する。
- ・学生が学校で習得したいと思っていることを正確に把握し、柔軟にカリキュラムを更新できるような体制づくりを望む。
- ・アフターコロナにおける、新しい生活様式における学校側の対応が今、まさに議論されている。講義科目のオンライン授業化はもとより演習系の科目をどうしていくのかが問われるだろう。
- ・ソーシャルディスタンスをはじめとして、長い時間を過ごすことになる住まいの在り方、多くの人間が窓のない空間に集約されるワークスペース、ラーニングスペースの在り方など、デザインで改善できる項目は多岐に渡っているので、今後の教育プログラムにいち早く盛り込む検討をはじめた方が良い。

以上



## 学校関係者評価委員

委員長	黒田 邦男（東京デザイナー学院 学校長）
副委員長	秋月 久美子（デザイナー / 卒業生等）
委員	藤原 亮二（有限会社藤原アイアンクラフト）
委員	阿部 賢吉（レモン画翠 / 地域等）
委員	佐々木龍郎（東京建築士会 / 業界団体等）
委員	菅野 修（東京デザイナー学院 学務部）
事務局担当	有賀 史彦（東京デザイナー学院）